

# 学術企画

## JART 消化管画像分科会, JSRT 画像部会 『透視検査における画質とノイズ低減技術の変遷 ～画像ノイズの理解と抑制～』

司会 鈴鹿医療科学大学 東出 了  
司会 東葛病院 安藤 健一

11月1日(金)  
15:10~17:00  
第2会場

- ①ノイズに関わる因子と低コントラスト検出能への影響  
大阪大学大学院 山崎 明日美
- ②消化管X線検査における重要な低コントラスト所見  
東葛病院 安藤 健一
- ③ノイズを低減する画像処理技術と画質評価  
東北大学病院 小野寺 崇
- ④時間軸を対象としたノイズ低減技術と画質評価  
東海大学医学部附属八王子病院 青木 聡
- ⑤透視検査におけるAI技術を用いたノイズコントロール  
小倉記念病院 佐保 辰典

本学術企画では、「透視検査における画質とノイズ低減技術の変遷～画像ノイズの理解と抑制～」について議論します。透視検査は手技や目的によって必要な線量が大きく異なり、画質と線量の最適化への取り組みが不可欠となります。画質と線量の最適化には、画像のノイズを理解し、臨床画像に与える影響について理解する必要があります。また、時間軸やAI技術を活用した画像処理によるノイズ低減処理技術の理解も非常に重要となります。講師や会場の皆さんと多くの議論ができることを楽しみにしています。



司会

東出 了



安藤 健一

## JART 検査説明委員会・チーム医療推進委員会 『医師のタスク・シフト/シェアを進めるために ～3年目の現在地と今後の期待～』

司会 東京臨海病院 藤井 雅代  
司会 函館五稜郭病院 小林 聖子

11月1日(金)  
15:10~16:30  
第3会場

- ①診療放射線技師の業務としての検査説明および同意書受領  
日本診療放射線技師会 江端 清和
- ②タスク・シフト/シェアの現状  
熊本赤十字病院 西小野 昭人
- ③診療放射線技師に期待するタスク・シフト/シェアについて～看護師の視点  
で見たカテ室の動き  
沖縄県立中部病院 屋比久 絵梨奈
- ④タスク・シフト/シェアの推進と診療放射線技師業務  
西田病院 江藤 芳浩

日本診療放射線技師会では医師の働き方改革に伴う診療放射線技師のタスク・シフト/シェアの実施に向けた取り組みを推進しているところですが、告示研修で習得する技術や知識だけではなく、本来チーム医療の一員として行うべき業務も進めていかなければならないと考えています。本シンポジウムでは、告示研修開始からの3年間を振り返るとともに、平成22年の医政局長通知で行うべき業務として挙げられた検査の説明と相談の意義も踏まえながら、タスク・シフト/シェアの現状と今後の方向性を考えたいと思います。また、業務にあたって看護師の方々との相互協力が不可欠であることから、沖縄県立中部病院看護師の方から「診療放射線技師に期待するタスク・シフト/シェアについて」と題して看護師の目線からの講演もお願いいたしました。

本シンポジウムで改めて医師の働き方改革において期待される診療放射線技師業務について集約したいと考えています。会員の多数の参加をお待ちしています。

司会

藤井 雅代(左)  
小林 聖子(右)



## JSRT 教育委員会 『画像解剖①, ②』

司会 (画像解剖①) 岐阜医療科学大学 西出 裕子  
司会 (画像解剖②) 杏林大学 坂本 岳士

11月1日(金)  
①15:40~16:20  
②16:20~17:00  
第1会場

- ①科学的・臨床病理学的根拠に基づいた乳腺画像診断  
～乳腺画像のその先を読み込む新時代の乳腺画像診断に向けて～  
那覇西クリニック 玉城 研太郎
- ②腹部領域  
沖縄県立中部病院 安谷 正

JSRT教育委員会では、毎年、秋季学術大会において、「画像解剖に関する講演」を企画しています。今回の大会は沖縄県での開催、ということで、沖縄県の医療をリードされているお二人の医師に講演をお引き受けいただきました。テーマは、①乳腺領域、②腹部領域で、それぞれ大会2日目の15:40～16:20、16:30～17:10に第1会場で行います。

乳腺領域は、那覇西クリニックの玉城研太郎先生に、腹部領域は沖縄県立中部病院の安谷正先生にご講演いただきます。画像解剖の企画は、「専門医より学ぶ、診療放射線技師が知っておくべき正常画像解剖や異常所見」ということで、毎回、多くの方にご参加いただいています。各領域における最新の画像診断に関する情報を得ることができる貴重な機会です。臨床研究を進めていくためにもきっと役に立つと思います。初學者だけでなく、経験の豊富な方も、どうぞご期待ください。

司会



西出 裕子

## JART 画像等手術支援分科会, JSRT 撮影部会 『手術支援画像作成のためにすべきことは』

司会 新潟大学医歯学総合病院 金沢 勉  
司会 柏葉脳神経外科病院 平野 透

11月2日(土)  
10:00~11:50  
第1会場

- ①CT撮像技術 国立がん研究センター中央病院 瓜倉 厚志
- ②MR撮像技術 大阪大学医学部附属病院 垂脇 博之
- ③脳神経領域の手術支援 秋田県立循環器・脳脊髄センター 大村 知己
- ④腹部領域の手術支援 札幌医科大学附属病院 田仲 健朗

本企画は「手術支援画像作成のためにすべきことは」というテーマで日本放射線技術学会撮影部会と日本診療放射線技師会画像等手術支援分科会との合同企画で開催することになりました。近年のInterventional Radiology(IVR)や外科治療では、患者の負担軽減や合併症軽減のためロボット手術を含めた高度な手術が行われています。これらを狭い手術野で安全で最適な手術を行うためには精度高い手術支援画像を作成することが求められ、臨床現場で画像作成する診療放射線技師の担う役割は大きいと考えています。

臨床医が手術を行う上で必要な画像とは、先ず血管系を含めた構造物を正しく描出した画像であり、造影剤投与方法も含めたCTやMRIにおける適切な画像取得が重要となります。更に様々な術式に対して臨床医が既視感を感じるような手術支援画像を作成する必要があり、術式や解剖を含めて臨床的な知識が必要となります。また、臨床医との日頃からの連携や情報共有を行うことが非常に必要なことであると考えられます。

本企画では適切なデータ取得と臨床医との連携という手術支援に必要な両面について議論を行い、両団体が行なってきた取り組みを知ることができる有益なディスカッションの場にしたいと考えています。

司会

金沢 勉(左)  
平野 透(右)

